

オークション体験で考える平等

ねらい

「これぞ不平等？」でも解説した通り、差別是正のためのさまざまな特別措置についての議論が深まりにくい原因の1つは、平等といえば「機会の平等」のことだと考えている人が多いことです。しかし、問題はその点にだけあるではありません。ここでは、オークションという方法を使って、もう1つの原因にアプローチします。

そのもう1つの原因とは、「機会の平等」がもっている問題点が実感的に捉えにくいことです。私たちはそれぞれに努力して人生を送っています。努力のおかげで何かを得られたと感じている人にとって、特別措置は不当に感じられやすいのです。また、周りを見れば、困難な環境を乗り越えて成功している人もいます。そのため、生まれ育った環境の違いは努力で乗り越えられると思いやすくなります。著名人などからも「夢は、あきらめずに持ち続けなければかなう」といった発言が聞かれます。そこへ「結果の不平等(実態的差別)」についての統計だけを紹介しても、むしろその統計に疑問を感じたりするのです。そこで、機会の平等が実際には不平等を維持・拡大するおそれ大きいことを実感的に理解することがポイントになります。成功者が1人出る背景には、成功し得なかった多くの人がいる。シミュレーション学習により、この社会の縮図を体験すれば、このような問題を実感的に理解できるのです。

また、「機会の平等」や「結果の平等」を理解するためにはいくつかの概念をあわせて学ぶことが必要です。例えば、「差別と全般的不利益の悪循環」、被差別者をしぼる「二重の拘束」、被差別者でない立場による「特権」などです。これらの諸概念は、社会を説明する理論と自分の生活を結びつける手助けとなります。

まず「これぞ不平等？」を通して、平等に関する複数の物差しを知ることにより、考え方を広げます。ついで「オークション体験で考える平等」を通して、不平等を疑似体験することにより差別を自分に引きつけて考えやすくなります。ここから、「機会の平等」という物差しを適用すべき場面と、集団間の「結果の平等」という物差しを適用すべき場面を、自分なりに判断できるようになることを期待したいと思います。

基本概念

機会の平等、結果の平等、「差別と全般的不利益の悪循環」、二重の拘束、特権

時間

120分

準備するもの

ワークシート「何といてもこれがほしい」(参加人数分)〈82ページ〉
ワークシート「何といてもこれがほしい」の各項目をA4程度の白紙に大きく書いた項目シート(項目数につき1枚ずつ)

模擬紙幣(模擬紙幣16枚の用紙と模擬紙幣25枚の用紙をあわせて参加人数分にする)〈83・84ページ〉

資料「結果の不平等(実態的差別)」(参加人数分)〈85・86・87ページ〉

コミュニケーションカード(感想を書いてもらう用紙)(参加人数分)

プログラムの流れ

「これぞ不平等？」と「オークション体験で考える平等」のアクティビティを載せています。

私たち一人ひとりもっている平等観をはっきりさせる

多くの場合、あいまいなままに「機会の平等」が平等だと考えていますが、それだけでは整理できない問題があることを考えます。集団間の「結果の平等」という考え方もあることを知り、平等についての自分の考えを振り返ります。

【アクティビティ】

部屋の四隅・「これぞ不平等？」



機会均等社会を疑似体験することにより、そこで発生する問題を認識する

「機会の平等」が原理となっている社会では、不平等の拡大再生産、不利益層の無力感、不正などが起こりやすいことを認識します。それに対して、「結果の平等」を促進するという考え方で特別措置が実施されていることを伝え、自分がどのような発想で差別問題に臨むかを考えます。

【アクティビティ】

早い者抜けじゃんけん・何といてもこれがほしい(不平等版)】



さまざまな差別や不平等をめぐる実態を学び、自分なりの考え方を練り上げる

「機会の平等」か「結果の平等」かという問題は、どちらがよいなど一義的に論じられるわけではなく、それぞれの問題のそれぞれの領域ごとに考えられるべきものです。できるだけ具体的な例をあげつつ、どのような領域についてどの原理をいかに適用すべきかを整理します。

【アクティビティ】

「これぞ不平等？」(後半の振り返りと資料解説)・身近な「結果の平等」策

アクティビティの進め方

●早い者抜けじゃんけん(20分)

5人勝ち抜きじゃんけんをし、早く勝ち抜いた人から周りの椅子に座ってもらいます。一般的に雰囲気盛り上げるだけではなく、「何といてもこれがほしい(不平等版)」につながるために、勝負へのこだわりによってグループ分けする点にも意義があります。

●「何といてもこれがほしい(不平等版)」(70分)

ワークシート「何といてもこれがほしい」を配り、「不平等について考えるため」と趣旨を簡単に説明します。座っている場所などに応じて、参加者を大きく2つの群に分け、一方の群と他方の群で所持金が異なるように模擬紙幣を配ります。この時、お互いの所持金が異なることには気づかれないようにします。例えば、「今からオークションに使う模擬紙幣を配るので、手元にきたらすぐに紙幣1枚ずつになるよう切って、購入計画を立ててください」と指示したうえで、一方の多額群には模擬紙幣25枚の用紙を配り、もう一方の少額群には模擬紙幣16枚の用紙を配ります。多額群の人数よりも、少額群の人数の方を多めにする方が効果的です。

具体的には、次のような手順で進めます。

「今日は、不平等について考えるために、『何といてもこれがほしい』というオークション(競売)をします。今からワークシートを配りますので見てください。配り終わったら購入計画を立てる方法を説明します」と述べて、ワークシートを配布し、購入計画を立てられるよう説明します。

「これから所持金を配ります。お金は大切なので、一人ひとり丁寧に配ります。手元にきたらすぐに一枚ずつに切って、後のオークションに備えてください。ここからは個人戦なので、おしゃべりはなしにして5分程度で購入計画を立ててください。所持金を配った後では質問にも答えられませんので、確かめたいことがあったら今のうちに質問してください」と述べて、模擬紙幣を一人ひとりに配ります。

ほぼ全員がワークシートを書き終わったら、「それではオークションを始めます。皆さんの購入計画に沿って、競売に参加してください。皆さんの項目を競り落とした人が勝ちですから、購入計画を大切にしつつも、購入のチャンスと見たら、柔軟に対応してください」と説明した上で、1項目ずつ競りにかけていきます。

競りの中では、「さあ、つぎは『●●』です。ほしい人はいませんか」「〇〇円」「〇〇円以上の人はいませんか」「××円」「××円が出ました。もうありませんか」と言ってせり上げていきます。とぎれたら、「それでは××円の方が落札しました。おめでとうございます。拍手」などと言いながら、前に出てきてもらってお金を受け取り、交換で項目シートを渡します。



このような形ですべての項目を競りにかけ、時間的に余裕があれば、ほしかった理由などを言ってもらいます。

すべての項目を競り終わったら、振り返りの話し合いをします。意見が出にくい場合は、隣どうして話しあってもらったうえで意見を出してもらうようにします。

オークションの中ではさまざまな出来事が起こります。例えば、途中で金額の違いに誰かが気づいて苦情を述べるなどです。これに対しては、「現実はそのようなもので、今日は不平等について考えるのがねらいなのでそうになっています」と簡単に説明し、すぐにオークションに戻ります。また、自分たちの金額が少ないと気づいた人たちの間で「私のお金を使ってそれを買って落としてください」などとお金の供出が始まったりもします。ルールの変更を申し出る人が出てきたり、やる気を失う人も出てきます。

たいていの場合、競り落とした項目数は、多額群の方が多くなります。多くの場合、多額群の人の中には、オークションが終了しても自分たちが多額の所持金になっていたことに気づかない人が出てきます。「金額が違っていたと分かっていますか」と尋ねて挙手してもらおうと、気づかなかった人がわかります。

そのことも関連して、多額群と少額群との間で感情的軋轢が発生したりします。多額の所持金を与えられていながら、そのことにすら気づかない人たちを見て、少額群の人たちがイライラするのです。



ファシリテーターの問いかけ

- 「金額が違うということはわかっていましたか」
- 「分かった人はどの段階でわかりましたか」
- 「所持金の額が違うとわかる前と後とで何か違ってきましたか」
- 「どちらのグループの人が何項目入手できたでしょうか」
- 「このオークションと現実とは、どこが同じでどこが違うでしょうか」

●身近な「結果の平等」策(20分)

「何といてもこれがほしい(不平等版)」というオークションで、なぜ購入物に差が生じ、貧富の格差が広がったのかを解説します。また、現実の社会ではどうなっているのか、資料「結果の不平等(実態的差別)」を各参加者に配布して紹介します。「機会の不平等」という概念が理解されたら、同和対策事業が実施された理由や、女性専用車両ができた背景を紹介してその是非を話し合います。

●ふりかえり(10分)

コミュニケーションカードに感想を記入してもらいます。また、もう少し時間がとれるなら、感想の疑問に答える時間を設けるなどすることもできます。

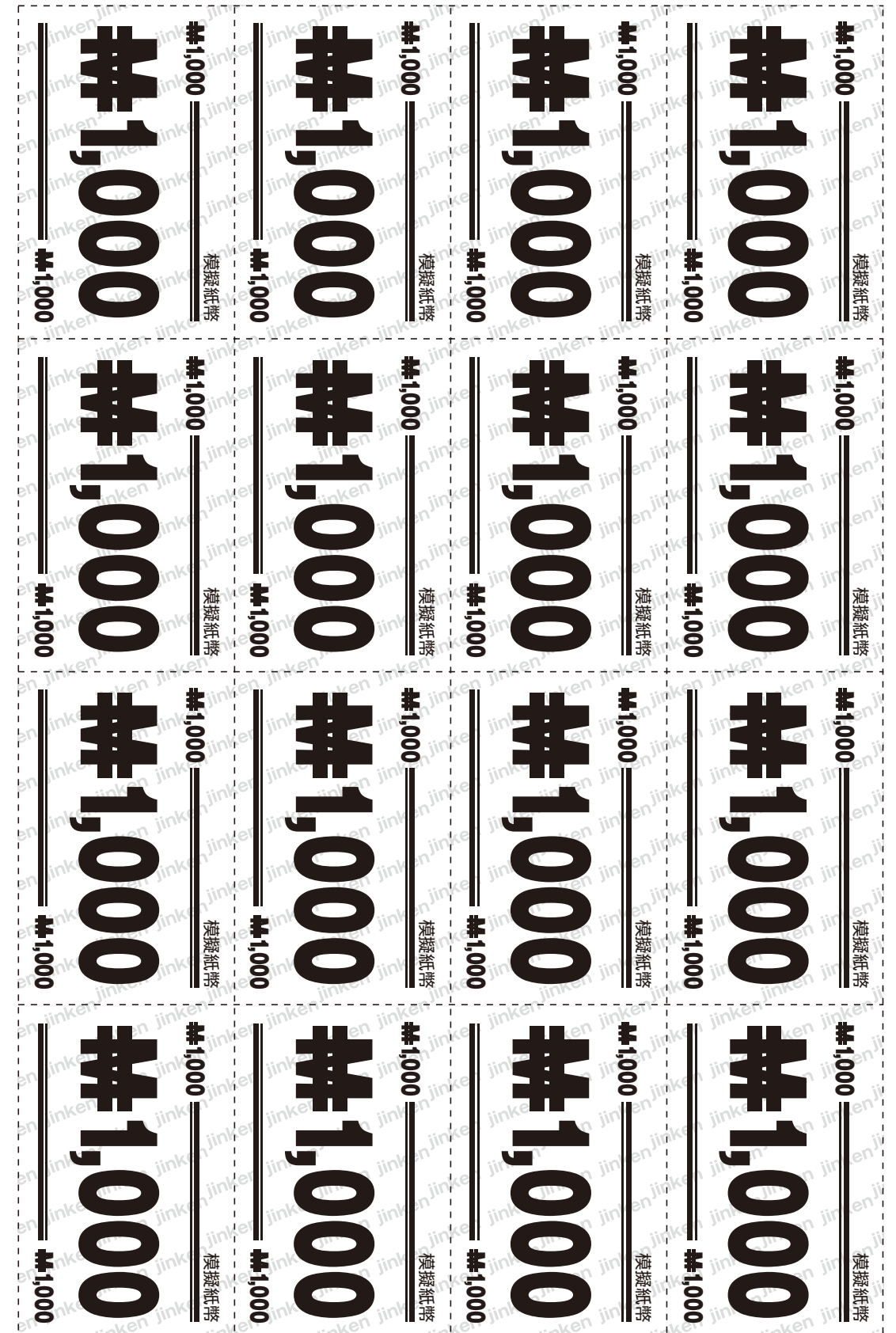
参考:『わたし・出会い・発見』
「何といてもこれがほしい」
(大阪府同和教育研究協議会 1996年)

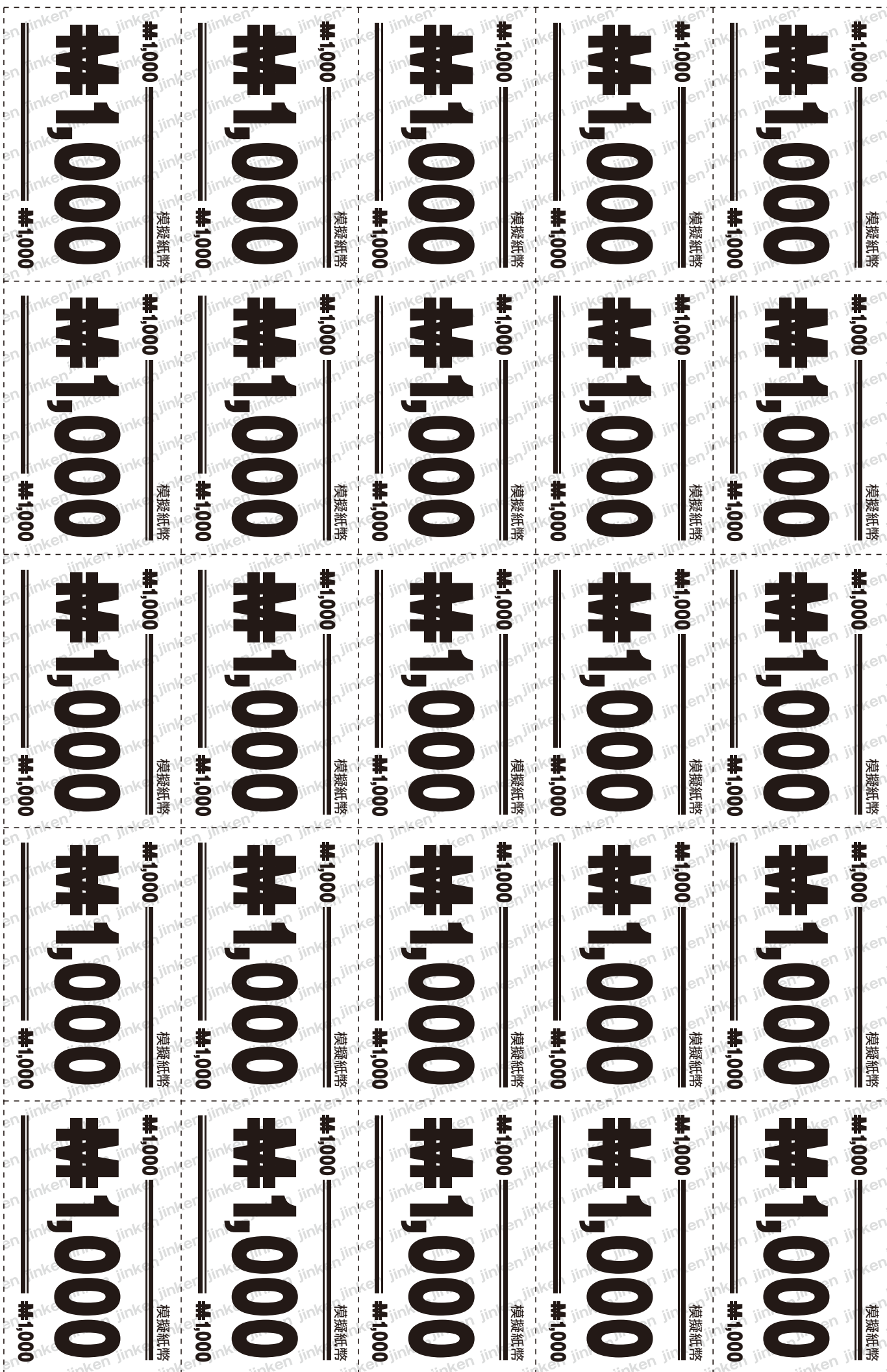
「何といてもこれがほしい」

	「価値」の項目	プラン欄	収支欄
1	事務処理・片づけと計画性の能力		
2	何かを信じる心		
3	スポーツ万能		
4	一つのスポーツに優れた力		
5	うまく発言する能力		
6	人の気持ちを思いやる心		
7	やってる仕事の成功		
8	素敵なルックスとスタイル		
9	好きな所に旅行するチャンス		
10	素直で誠実な心		
11	人から好かれる資質		
12	自分の健康		
13	思ったことを発言・表現出来ること		
14	強い指導性、リーダーシップ		
15	音楽的才能		
16	絵などの美術的才能		
17	世界の平和		
18	うまく人間関係をつくる力		
19	高い地位、出世		
20	ユーモアのセンス		
21	スリムな体重		
22	今のままの自分を認められること		
23	安心出来る未来		
24	読書をする余裕と能力		
25	かしこさ		
26	文章をスラスラとうまく書く力		
27	自由な時間		
28	十分な語学力		
29	夢をもつこと		
30	詩や小説を書ける文学的才能		
31			
32			
33			

出典:『わたし・出会い・発見』大阪府同和教育研究協議会 1996年

模擬紙幣16枚の用紙と模擬紙幣25枚の用紙は、コピーして余白を切り取ってから配ってください。

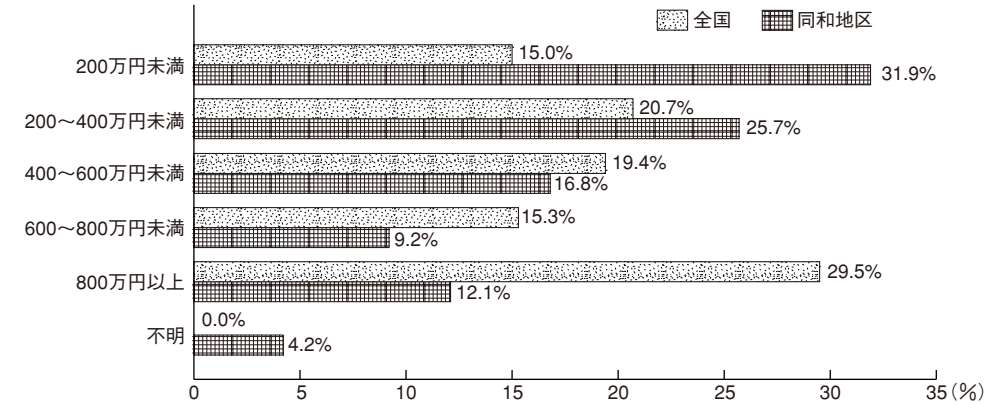




結果の不平等 (実態的差別)

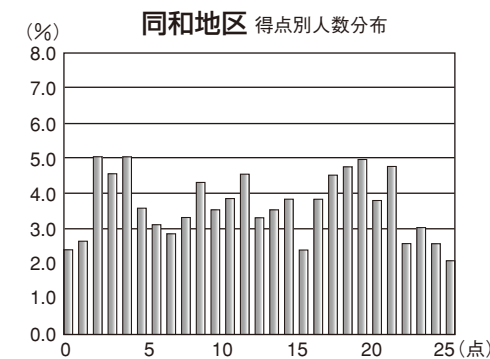
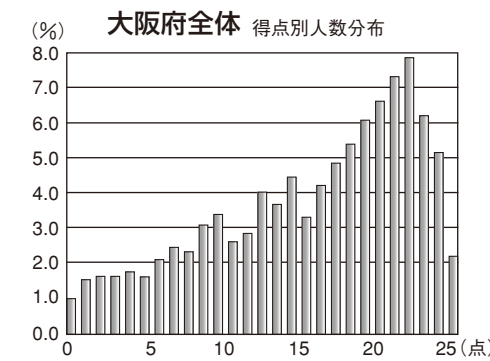
同和問題

年間世帯総収入別の世帯構成比



注) 全国:「国民生活基礎調査」1998年 厚生労働省
同和地区:「同和問題の解決に向けた実態等調査」2000年 大阪府

中学校3年生 数学



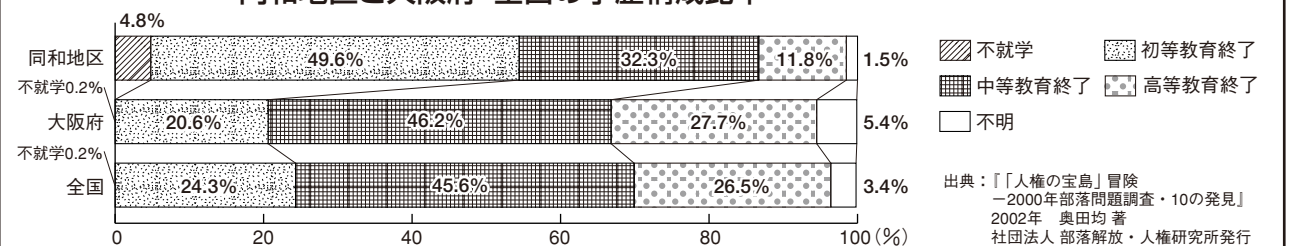
失業率

	男性		女性	
	同和地区	大阪府	同和地区	大阪府
総数	9.7%	6.6%	8.2%	5.6%
15~19歳	31.3%	15.6%	20.6%	12.1%
20~24歳	15.0%	9.9%	16.9%	8.9%
25~29歳	9.5%	6.6%	9.1%	8.3%
30~34歳	6.8%	4.8%	8.4%	6.8%
35~39歳	6.8%	4.1%	5.6%	4.7%
40~44歳	10.0%	4.2%	4.7%	3.7%
45~49歳	8.0%	4.2%	8.9%	3.2%
50~54歳	6.3%	4.1%	4.3%	3.0%
55~59歳	6.1%	5.4%	8.0%	3.6%
60~64歳	13.5%	15.2%	6.5%	5.0%
65~69歳	13.4%	11.3%	3.6%	3.6%
70歳以上	9.9%	7.3%	2.1%	2.9%

注) 大阪府:「国勢調査」1995年
失業率の算出方法は、「国勢調査」と同様に右記のように算出した
失業率 = $\frac{\text{「仕事を探していた」}}{\text{「就業者」} + \text{「仕事を探していた」}} \times 100$

『平成15年度「同和問題の解決に向けた実態等調査(平成12年度)」対象地域に居住する児童生徒の学力等の実態の分析』2004年大阪府教育委員会

同和地区と大阪府・全国の学歴構成比率

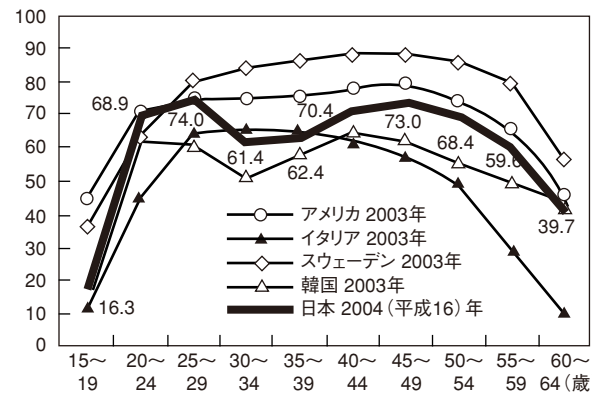


出典:「「人権の宝島」冒険 - 2000年部落問題調査・10の発見」2002年 奥田均著 社団法人 部落解放・人権研究所発行

結果の不平等(実態的差別)

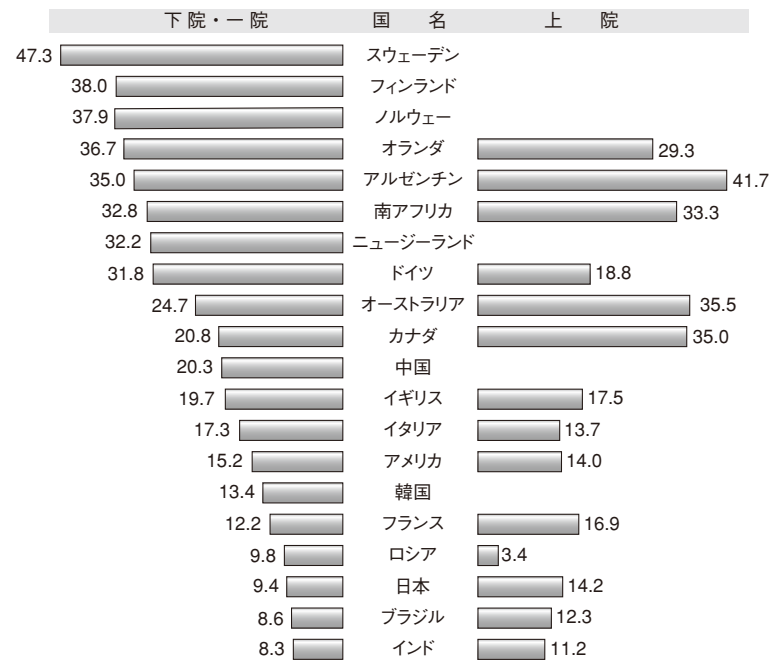
女性の人権

女性の年齢階級別労働力率の国際比較



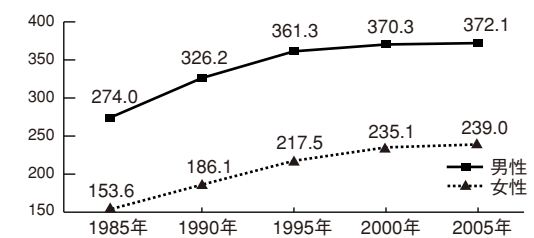
資料出所:ILO "LABORSTA" 総務省統計局「労働力調査」(平成16年)
注)アメリカ、スウェーデンの、「15~19歳」の欄は、「16~19歳」である。
「2004年(平成16年)版 働く女性の実情」厚生労働省

世界の女性国会議員比率(%)



列国議会同盟HPより作成(2006年10月31日)内閣府男女共同参画局

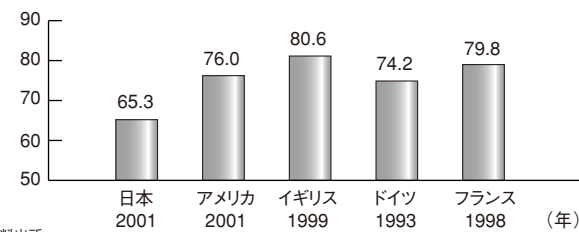
決まって支給する現金給与額の男女格差とその推移



男女間格差(男性=100)	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年
56.1	57.1	60.2	63.5	64.2	

「賃金構造基本統計調査」厚生労働省

男女間賃金格差の国際比較(男性=100)

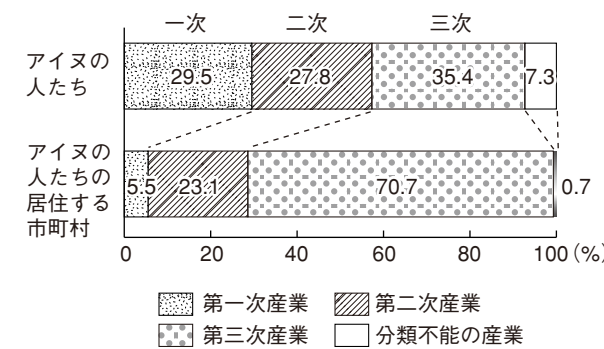


資料出所 日本:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(2001年)/アメリカ:労働省「Employment and Earnings」(2001年)
イギリス、ドイツ、フランス:ILO「Year Book of Labour Statistics」(2000年)
注)日本:1ヶ月当たり賃金(所定内給与)、フルタイム労働者、アメリカ:1週当たり賃金、16歳以上、フルタイム労働者、イギリス:1時間当たり賃金、成人、フルタイム労働者、ドイツ:1時間当たり賃金、即・小売・レストラン・ホテル業・運輸・倉庫・通信業・金融・保険・不動産・対事業所サービス業、対地域・社会・個人サービス業を除く、フランス:1時間当たり賃金、鉱業・採掘業、電気・ガス・水道業、公務及び家事サービス業を除く、「男女間の賃金格差問題に関する研究会報告」厚生労働省(2002年)

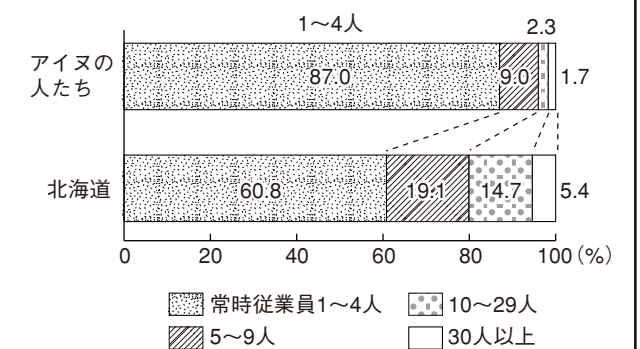
結果の不平等(実態的差別)

アイヌ民族の人権

就業者の状況 (15歳以上の産業別就業者の比率)

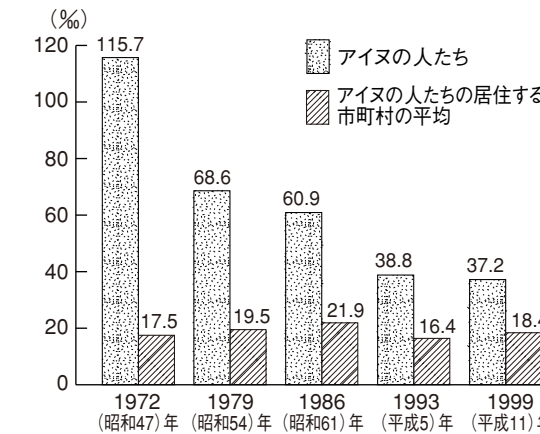


商工業の状況 (常時従業者規模別事業所の比率)

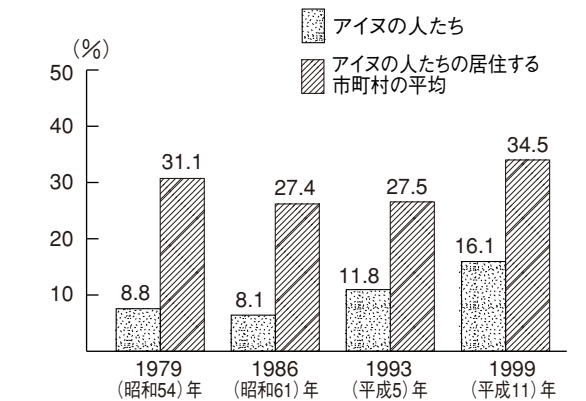


生活保護の状況

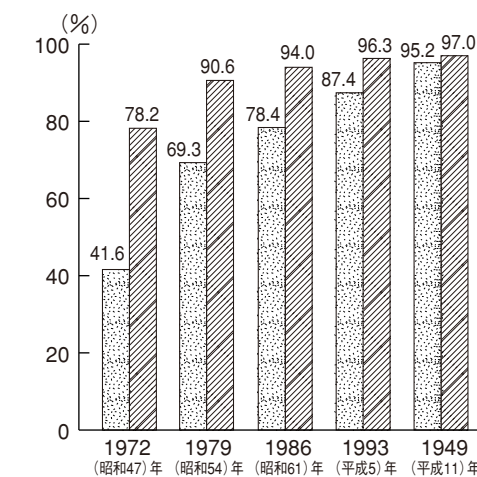
保護率(人口1,000人中保護を受けている人の割合)



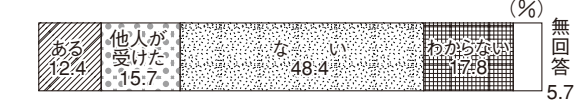
大学進学率



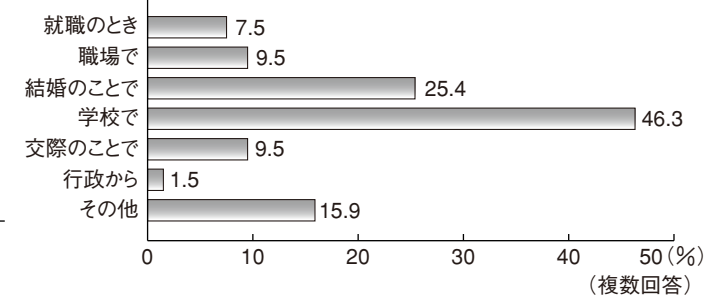
高校進学率



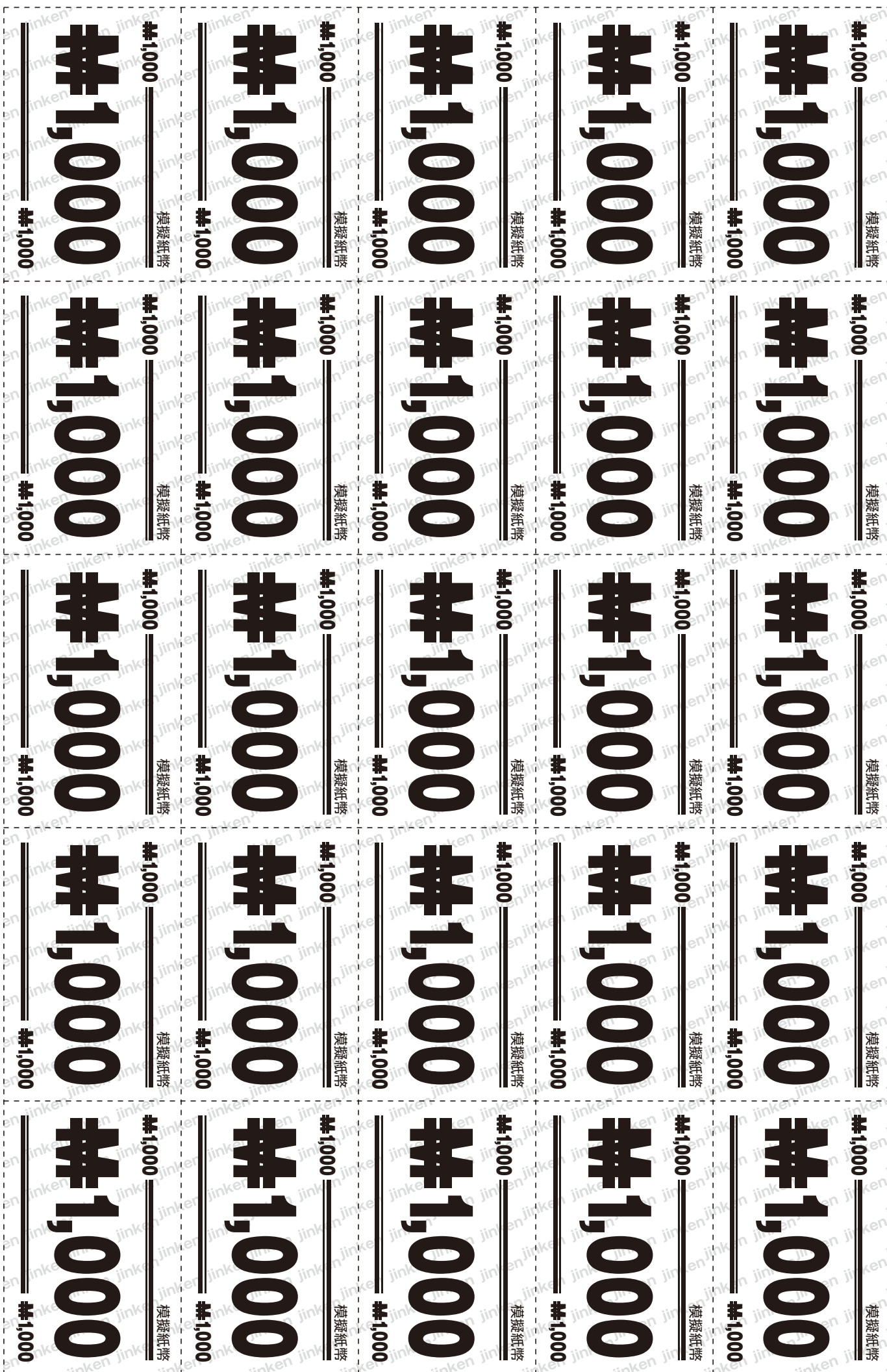
差別を受けたことがありますか



差別を受けた場面



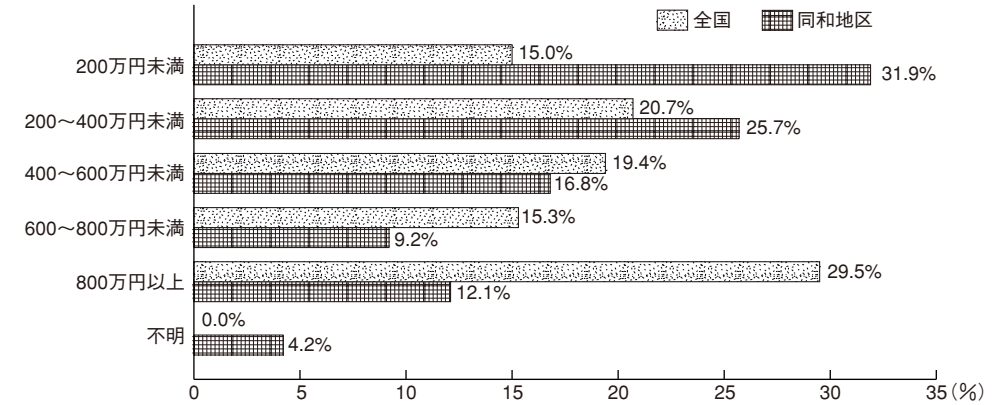
「アイヌ民族を理解するために」(2002年) 北海道環境生活部総務課アイヌ施策推進室



結果の不平等 (実態的差別)

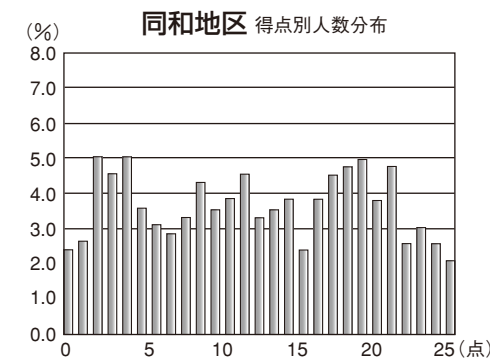
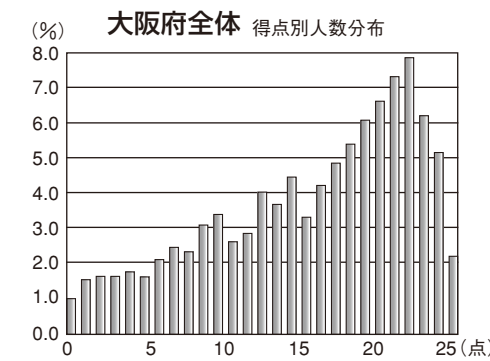
同和問題

年間世帯総収入別の世帯構成比



注) 全国:「国民生活基礎調査」1998年 厚生労働省
同和地区:「同和問題の解決に向けた実態等調査」2000年 大阪府

中学校3年生 数学



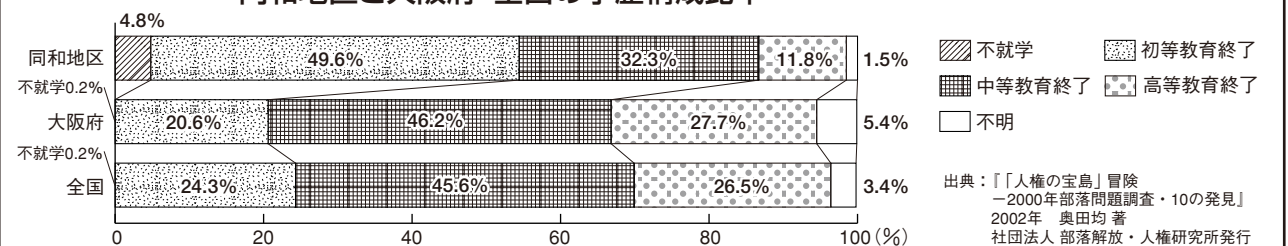
失業率

	男性		女性	
	同和地区	大阪府	同和地区	大阪府
総数	9.7%	6.6%	8.2%	5.6%
15~19歳	31.3%	15.6%	20.6%	12.1%
20~24歳	15.0%	9.9%	16.9%	8.9%
25~29歳	9.5%	6.6%	9.1%	8.3%
30~34歳	6.8%	4.8%	8.4%	6.8%
35~39歳	6.8%	4.1%	5.6%	4.7%
40~44歳	10.0%	4.2%	4.7%	3.7%
45~49歳	8.0%	4.2%	8.9%	3.2%
50~54歳	6.3%	4.1%	4.3%	3.0%
55~59歳	6.1%	5.4%	8.0%	3.6%
60~64歳	13.5%	15.2%	6.5%	5.0%
65~69歳	13.4%	11.3%	3.6%	3.6%
70歳以上	9.9%	7.3%	2.1%	2.9%

注) 大阪府:「国勢調査」1995年
失業率の算出方法は、「国勢調査」と同様に右記のように算出した
失業率 = $\frac{\text{「仕事を探していた」}}{\text{「就業者」} + \text{「仕事を探していた」}} \times 100$

『平成15年度「同和問題の解決に向けた実態等調査(平成12年度)」対象地域に居住する児童生徒の学力等の実態の分析』2004年大阪府教育委員会

同和地区と大阪府・全国の学歴構成比率



出典:「「人権の宝島」冒険 - 2000年部落問題調査・10の発見」2002年 奥田均著 社団法人 部落解放・人権研究所発行